

# 津軽の海

(昭和九年寮歌)

星勇君 作歌

白石祐義君 作曲

## 一

津軽の海渦巻ける奥  
オホツクの寒潮咆哮えて  
雄健き名ぞ蝦夷が島根に  
年古りし恵迪の寮  
旅寝とな言ひし三年を  
揺籃の高夢を追ふなり

## 三

清明の水に浮べる  
宵月の影はさやけし  
酒觴をめぐらしかさね  
熊熊の声聞くもすべなし  
たぎりゆく若き血潮に  
限りなき感激をしたふ

## 五

恵迪の館を訪ひし  
竜田姫佐保神三たび  
若人の生命捧げし  
想ひ出の自由の宴遊  
永劫に若き一日の  
夢とせむ榆鐘の調べを

## 二

寂寥の歩行はこびて  
茂みさぶる森に仰臥し  
先人の詩になぞらへ  
陳腐なる歌を恥ぢらふ  
ただ仰げ自然の姿  
そは深き黙示をきさむ

## 四

六十にも齢うつろひ  
集ひたる寮友は兄弟  
伝統の永遠の記念と  
感激の寮史も成りぬ  
情懷深く唯魂が  
魂と結び輝く

## 六

黎明は曠野の際涯  
雄叫びと共に来れり  
満蒙の長夜の闇も  
晴れんとす起てよ寮友  
青春の象牙の塔を  
いざ出でむ時は到れり

## 七

北溟の自治の牙城を  
蒼穹高く巢立つ寮友  
澆季の世救はんは汝れ  
済世の烽火あぐべし  
忘れ得ぬ恵迪の歌  
高唱ひゆけ正義の大道を